

プレドニゾロンの苦みによる服用困難を回避

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は服薬指導時に患者より聴取した情報を元にしたプレアボイド報告を紹介いたします。

患者背景

Aちゃん

- ▶ 血液疾患に対し加療中
- ▶ プレドニゾロン散の内服開始
- ▶ 風邪薬などの粉薬は上手に飲めている



看護師



Aちゃんにはじまったステロイド。昨日はがんばって飲んでくれたけれど、嫌がるようになりました。しばらく続けるお薬だし、お母さんも大変そう。いい方法ないですかね～。

薬剤師が訪室し、お話を伺うと・・・



お母さん



だいたい薬は嫌がらずに飲んでくれる子なので昨日は飲めたんですけど。嫌になってしまったようで飲んでくれなくなってしまいました。

Aちゃん、お薬がんばったね！
苦いのが嫌かな～、お薬が多いのが嫌かな～。
単シロップを試してみましようか・・・



普段は甘い薬の方が苦手で、苦い抗生剤は今までは割と平気で飲んでいたんですけど・・・



苦いうえに、粉の量が多いので飲むのがしんどいのかもかもしれませんね。先生に相談してみます。



医師へ提案

Aちゃんがプレドニゾロン散を嫌がって飲めなくなっているようです。散剤だと嵩が増えてしまっているのので、錠剤の粉砕化に変更を検討していただけないでしょうか？



今はプレドニゾロン散
1%を1回0.7g
(7mg) 飲んでいる...
錠剤を粉砕化すれば賦
形も入れて1回0.3g
にできる！

医師



錠剤の粉砕化で試してみましょう。

前よりは嫌がらずに飲めるようになりました！



患者の服用状況を確認し、患者にあった剤形へ変更しコンプライアンス向上へ貢献できた